

地域で暮らす子どもの救急対応の研修会

～乳幼児を預かる方への教育支援～

杏林大学保健学部看護学科看護養護教育学専攻（小児看護学）

藤田千春、山内亮子、場家美沙紀、小林佳寛

I. 背景と活動目的

近年、子どもをもつ共働き世帯の増加に伴って、多くの乳幼児が保育施設等で日中過ごしている。地域で過ごす子どもの多くは健常児であるが、誤嚥、転落、交通事故、溺水といった不慮の事故により心肺停止につながる状況が少数ながらも生じている。子どもを預かる職種の多くは、消防署等の救命講習を受けているが、2年～3年に1度程度の受講であり、胸骨圧迫をはじめとした一次救命処置の実践には期間が開くほど消極的になってしまうという声が聞かれた。また、乳幼児の講習は、成人の救命処置の後半に設けられている状況で、講習の所要時間も半日単位となっている。子どもの一次救命処置のみの受講希望者にとっては、受講の障壁となりやすい。しかし、不慮の事故から子どもの命を守るために、子どもに関わる職種は一次救命処置の技術を身につけておくことが望ましい。そこで本活動の目的は、**保育・子育て支援施設の職員に乳幼児の救急対応の技術をコンパクトな時間で学んで頂くことを支援すること**とした。これによって技術面の向上を図り、万が一の時に、一次救命処置の実践につなげて頂くことを期待した。

II. 活動の準備

☆学生ボランティアの募集

教員と共に参加者への指導補助を担当する学生を募集し、6名の応募が得られた。

☆講習プログラムの準備

実施施設でニーズのある講習内容を抽出し、施設で必要な講習を選択できる様、指導のプログラムを検討した。

内容の組み立てや要点を受講者に伝えやすくする為に、教員は改めてAHABLS講習2020で自己研鑽した。また他受講者の取り組みを参加観察し、受講者が欲している内容や動作の特性を確認。

☆学生ボランティアとの練習会

学生と共に勉強会と技術面の練習会を行った。

実施日：2024年1月25日午後

☆実施施設との打ち合わせ

学びたい内容と所要時間と必要器材について打ち合わせた。**施設のニーズに合わせて受講内容を調整。**



実施風景

←乳児の一次救命処置のデモ風景



←講習を終えた学生ボランティア

⇒
受講者の実施を見守りまず
タイミング良く指導します
指導のために沢山勉強
してくれました



III. 活動内容と結果

☆実施日、施設

2024年①2月5日羽村市内保育園 ②2月8日羽村市保育園 ③2月26日小田原市子育て支援センター

☆当日受講者数：①12名 ②9名 ③11名 計32名（保育士、子育て支援員、事務）

☆実施した講習プログラム

- ・AEDの取り扱い方、管理の仕方（講義） ◆赤文字の項目を基本コースとして指導
- ・一次救命処置とAED実施（安全確認・意識確認～胸骨圧迫～人工呼吸の繰り返し～AED実技）
- ・窒息の解除⇒施設の希望や所要時間により選択制

※技術面の練習が複数回できるように配慮。ケガの手当ての講義⇒特に希望される場合に実施

☆受講者の声

- ・特に乳児の胸骨圧迫について学べて良かった。勉強になった。
- ・シミュレータや練習用AEDを使って練習できたのが分かりやすくて良かった。
- ・丁寧でとても分かりやすかった。・年一回はできると良いと思いました。・繰り返し練習したい。等々

特色

グループに教員と学生ボランティアを配置し、いつでも質問しやすい場面作り。学生ボラも体験をもとに技術面のアドバイス！

IV. まとめ

救命講習受講経験者は、練習することで以前の講習内容を思い出していたので、年1回位の間隔で練習の機会があると万が一の場面で適切な実践につなげることができる可能性がある。他の施設からも受講希望の連絡が寄せられているため、今後も受講者のスキルアップと意識向上に貢献出来たら良いと考える。